

数字で見る経済

スーパーリサーチャーの

「イノっち」が大阪市24区を斬る



井上智之 (いのうえ さとし)

1970年生まれA型。某シンクタンクで関西の産業振興に関する調査をしていたが、縁あって大阪都市経済調査会へ。俯瞰的な分析を徹底するクールさと「いつかは独立したい」というアツイ野心を併せ持つが、泥酔すると昭和歌謡で突然踊り出す奇怪な一面も。

その1 ▶ 北区 日本一長い商店街 天神橋筋商店街の今

今回は大阪市北区の天神橋筋商店街を訪問してきました。ここは全長約2.6kmあり、日本一の長さで有名です。近年、商店街の衰退があちこちで見受けられますが、この商店街は元気のある商店街としても注目を集めています。実際に歩いてみると、数多くの人とすれ違いました(表1)。歩いたのが通勤時間帯であることと、途中に5つの駅(地下鉄天神橋筋6丁目駅、扇町駅、南森町駅とJR大阪天満宮駅、天満駅)があるので、明確な因果関係は説明できませんが、通行人が多いところで店舗・飲食店数は多くなっています。さて、天神橋筋商店街を含む、天神橋1丁目から8丁目までの小売業・卸売業の近年の動向を見ると、事業所数が減少していることがわかります(表2)。ところが、店舗・小売店の数を

見ると、小売業・卸売業と同じく、ほとんどの丁で減少していますが、減少率は小さくなっています。これは、後者には飲食店やサービス業など小売・卸売業以外の店舗が含まれていることに起因します。

この結果から単純に考えると、これまで主として商店街を構成していた小売・卸売業が減少して、飲食店やサービス業などほかの業種・業態が増加している様子がうかがえます。実際、住宅地図を用いて平成13~16年までの商店街内部における店舗の変化を見てみると、小売・卸だけでなく、飲食やサービスの事業所が新規に立地している様子がうかがえます。例えば、飲食ではブロードバンドカフェ(1件)、サービスではクイックマッサージ(5件)、介護サービス(1件)、また、小売でも

100円ショップ(4件)、金券ショップ(3件)、携帯電話ショップ(3件)などというように、これまでなかったような新しい業種・業態が数多く見られました(表3)。

一部では、店舗が閉鎖されてシャッターが締め切られた状態の店舗も見られましたが、概ね商店街の新陳代謝はうまくいっているようです。小売・卸売業の店舗が減少しても、多くの通行人がいるということで、今後もさまざまな新しい業種・業態が生まれることが期待されます。

[表1] すれ違った人数と店舗・飲食店数

	人数(人)	店舗・飲食店
天神橋1丁目	75	130
天神橋2丁目	164	165
天神橋3丁目	177	216
天神橋4丁目	207	338
天神橋5丁目	137	264
天神橋6丁目	82	123
天神橋7丁目	67	118
天神橋8丁目	5	11

資料:人数は実際に計測、店舗・飲食店は「事業所・企業統計」より作成

注1:天神橋筋商店街のメインストリートを歩いて実際に計測(8丁目から1丁目への一方のみ)

注2:計測したのは火曜日の17:30から18:00の約30分間(歩行時速 約5.2km)

[表2] 卸売業・小売業と店舗・飲食店の増減率

	卸売業・小売業(H9~H14年)		店舗・飲食店(H8~H13年)	
	事業所数	従業者数(人)	事業所数	従業者数(人)
天神橋1丁目	-8.3	-7.8	-12.2	-8.0
天神橋2丁目	-29.6	-39.7	-10.3	-16.7
天神橋3丁目	-13.8	14.3	3.3	3.2
天神橋4丁目	-20.7	-5.5	-0.3	4.2
天神橋5丁目	-27.7	-17.5	-9.6	-10.6
天神橋6丁目	-15.9	-19.3	-4.7	11.2
天神橋7丁目	-25.8	-10.6	-10.6	4.6
天神橋8丁目	-35.3	15.1	-38.9	-57.1

資料:卸売業・小売業は「商業統計」、店舗・飲食店は「事業所・企業統計」より作成

[表3] 新規出店事業所数(平成13~16年)

	小売・卸	飲食	サービス	合計
天神橋1丁目	2	13	1	16
天神橋2丁目	2	7	2	11
天神橋3丁目	11	7	9	27
天神橋4丁目	16	5	3	24
天神橋5丁目	14	5	1	20
天神橋6丁目	6	2	0	8
天神橋7丁目	4	3	1	8
天神橋8丁目	0	0	2	2

資料:ゼンリン「住宅地図」より作成

注:天神橋筋商店街のメインストリートに面した1階店舗が対象

大阪産業創造館までの時間距離

北区役所からの所要時間

※実際に計測。地下鉄利用。電車の待ち時間を含む。

約25分